

証券コード6859

エスペック株式会社

**2016年度(2017年3月期)
第2四半期決算説明会**

2016年11月17日

www.espec.co.jp

目次

会社概要

2016年度第2四半期 決算概要

2016年度第2四半期決算 セグメント別分析

2016年度通期計画

参考資料

会社概要

大阪にて創業69周年 環境試験器の業界トップメーカー

会 社 名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代 表 者	石田 雅昭 (いしだ まさあき)
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資 本 金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,427名(連結)
事業内容	環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

(2016年9月30日現在)

グローバルネットワーク

連結会社 13社
(海外9社、国内4社)

海外ネットワーク
43力国34社

国内拠点 26力所
国内代理店 46社

欧州

△ESPEC EUROPE GmbH
△ESPEC IKLIM KABINLERİ
SATIS VE MUHENDISLIK
LIMITED SIRKETI

- エスペック(株)
- エスペックテストシステム(株)
- エスペック九州(株)
- エスペックミック(株)
- △(株)ミックファーム大口

日本

アジア

- 上海愛斯佩克環境設備有限公司
- 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- 愛斯佩克試驗儀器(廣東)有限公司
- 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ESPEC(CHINA)LIMITED
- ESPEC KOREA CORP.
- △ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN.BHD.
- △ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.

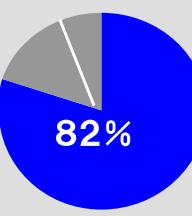
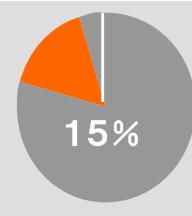
米国

- ESPEC NORTH AMERICA, INC.
- QUALMARK CORPORATION
- Real Chambers Corporation

●印…連結会社
△印…非連結子会社

(2016年9月30日現在)

事業概要(各事業の市場／用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2016年度2Q
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 <ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・ハストチャンバー ・FPD装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 	 <p>82%</p>
	エナジーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 	
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 ・半導体評価装置 <ul style="list-style-type: none"> ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産、検査 ・開発、評価 	
サービス事業	アフターサービス エンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービス <ul style="list-style-type: none"> ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 	—	 <p>15%</p>
	受託試験 レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール <ul style="list-style-type: none"> ・機器レンタル ・校正 		<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 	
その他事業	環境エンジニアリング	森づくり、水辺づくり、都市緑化			
	新規事業	植物工場、将来の収益源となり得る新たな事業の開発・創造			

TOPICS 納入事例(装置事業)

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所
スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品:
大型恒温恒湿室

用途:
太陽光発電向けの
大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価
100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構
蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品:
①充放電試験用の恒温恒湿室
②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途:
①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しない
ことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

TOPICS 納入事例(装置事業)

(2016年2月納入)

■日本大学 スポーツ科学部 三軒茶屋キャンパス(2016年4月新設)

納入製品:

低酸素トレーニング室・低酸素プール室

用途:

低酸素状態でのトレーニングによる心肺機能・運動能力の向上
アスリートの育成、効果的なトレーニング方法の研究



低酸素トレーニング室



低酸素プール室

TOPICS 納入事例(その他事業)

(2016年3月納入)

■鳥取大学乾燥地研究センター

納入製品：

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途：

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子

TOPICS 森づくり活動が「緑の都市賞」を受賞

エスペックミックの森づくり活動が輪王寺(仙台市)とともに
第36回緑の都市賞 都市緑化機構会長賞を受賞※

トンネル工事により伐採された曹洞宗金剛寶山 輪王寺(宮城県仙台市)の杉並木を、
5年間かけて約60種3万本を超える植樹を行い、豊かな広葉樹の森を復元しました。
※公益財団法人都市緑化機構主催



地域の方々との植樹の様子



大きく育った広葉樹の森
(仙台市輪王寺の参道)

2016年度第2四半期 決算概要

2016年度上期の振り返り

外部環境

- ・円高の進行
- ・環境規制の強化に伴う電気自動車・燃料電池車などエコカーの開発加速
　車載用二次電池の安全性に関する国連規格
(ECE R100-2. Part II)の適用開始: 2016年7月
- ・自動運転技術の開発加速
- ・IoT、AIなど先端技術開発

内部状況

- ・中国市場でONE ESPEC体制を構築
(2015年7月上海エスペックを完全子会社化)
- ・北米QUALMARK社を連結子会社化
(2015年12月)
- ・バッテリー安全認証センターを宇都宮に開設
(2015年9月)
- ・医薬品の安定性試験において、
ナガノサイエンス社とバリデーション業務提携
(2016年5月調印式)

決算総括

上期は前年同期比では増収減益、期初計画も大きく下回ったため、

上期・通期業績・配当予想の下方修正を発表

- 受注高は、装置事業とその他事業が前年同期を下回り、前年同期比では減少したが、装置事業の一部の製品群において受注時期の前倒しがあり、期初計画は上回る
- 売上高は、装置事業で前期受注した大型FPD装置の計上があり、前年同期比では増加したが、主力の環境試験器やサービス事業は計画に及ばず、期初計画は下回る
- 営業利益は、売上構成の変化による原価率の悪化や為替変動などにより前年同期・期初計画ともに下回る
- 経常利益・四半期純利益は、営業利益の減少に加え、為替差損の影響などにより、前年同期・期初計画ともに下回る
- 円高の影響は、前年同期比で売上高△5.2億円、営業利益△1.3億円
- 1株当たり配当金は、中間配当金は期初計画どおり12円、期末配当金は期初計画から4円減額し20円、年間では32円を予定

損益の状況

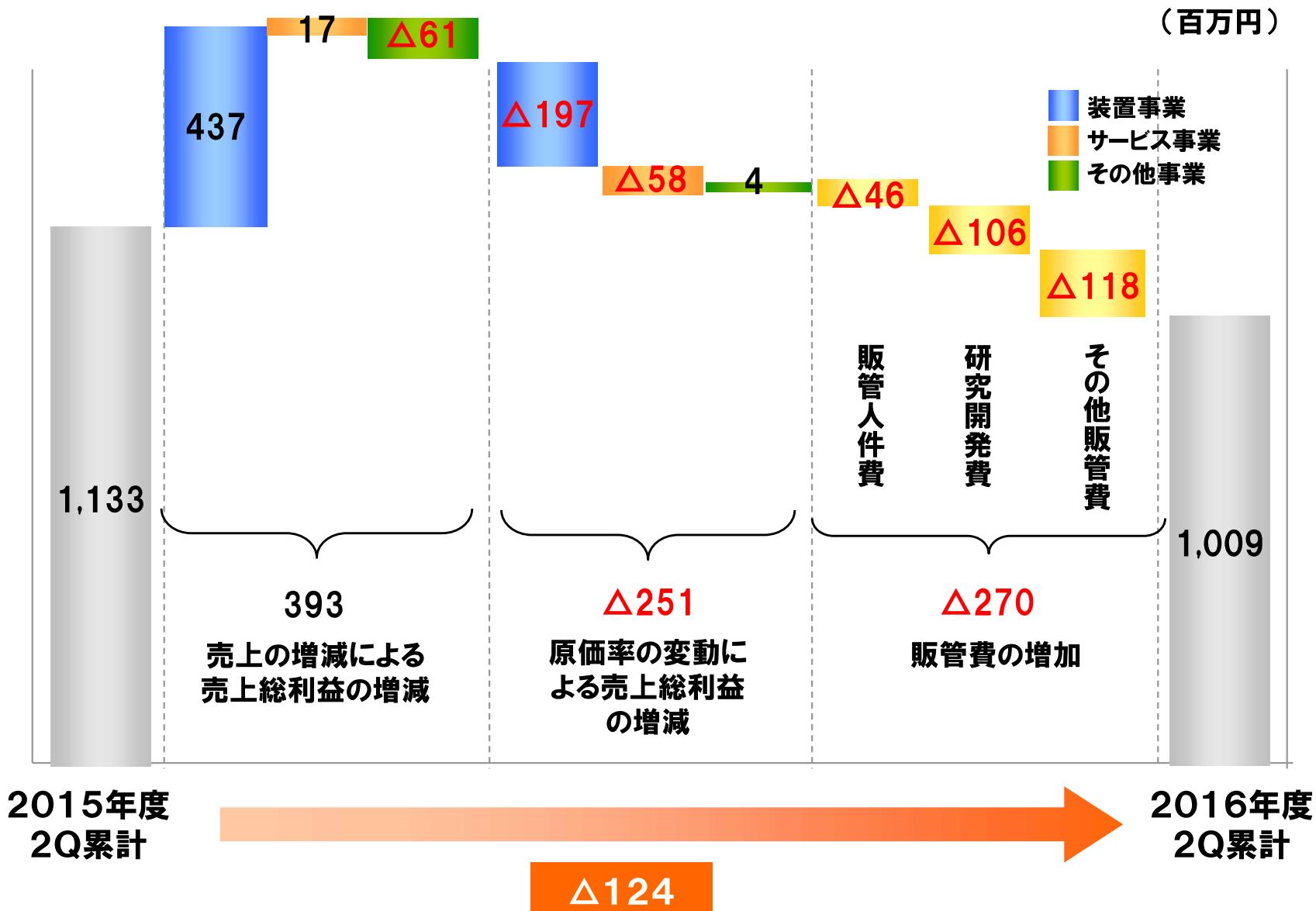
	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q期初計画	2016年度 2Q累計	前年 同期比	(百万円) 期初 計画比
受注高	20, 764	19, 000	19, 914	△4. 1%	4. 8%
売上高	16, 136	18, 000	17, 250	6. 9%	△4. 2%
売上原価 (原価率)	10, 392 (64. 4%)	11, 650 (64. 7%)	11, 360 (65. 9%)	9. 3%	△2. 5%
売上総利益	5, 743	6, 350	5, 889	2. 5%	△7. 3%
販管費	4, 609	4, 950	4, 880	5. 9%	△1. 4%
営業利益	1, 133	1, 400	1, 009	△11. 0%	△27. 9%
経常利益	1, 274	1, 450	833	△34. 6%	△42. 6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	802	1, 000	512	△36. 1%	△48. 8%

セグメント別の損益の状況

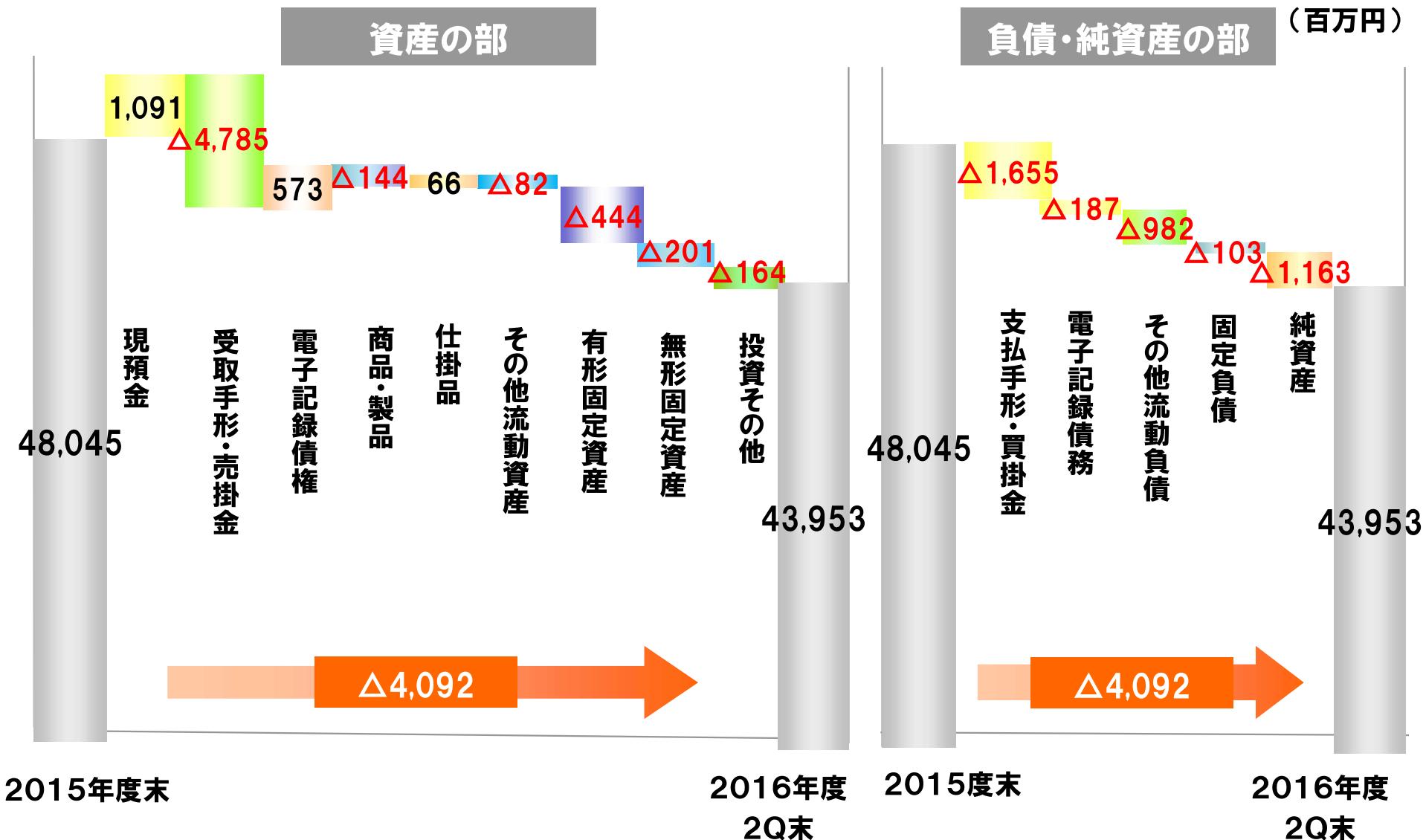
(百万円)

セグメント		2015年度 2Q累計	2016年度 2Q期初計画	2016年度 2Q累計	前年 同期比	期初 計画比
装置事業	受注高	17, 156	15, 600	16, 508	△3. 8%	5. 8%
	売上高	12, 909	14, 900	14, 188	9. 9%	△4. 8%
	営業利益	887	1, 150	901	1. 5%	△21. 7%
サービス事業	受注高	2, 944	2, 800	2, 908	△1. 2%	3. 9%
	売上高	2, 615	2, 800	2, 666	1. 9%	△4. 8%
	営業利益	215	300	152	△29. 3%	△49. 3%
その他事業	受注高	808	700	621	△23. 2%	△11. 3%
	売上高	733	400	502	△31. 5%	25. 5%
	営業利益	32	△50	△45	—	—
連結消去	受注高	△145	△100	△124	—	—
	売上高	△122	△100	△108	—	—
	営業利益	△2	—	1	—	—
計	受注高	20, 764	19, 000	19, 914	△4. 1%	4. 8%
	売上高	16, 136	18, 000	17, 250	6. 9%	△4. 2%
	営業利益	1, 133	1, 400	1, 009	△11. 0%	△27. 9%

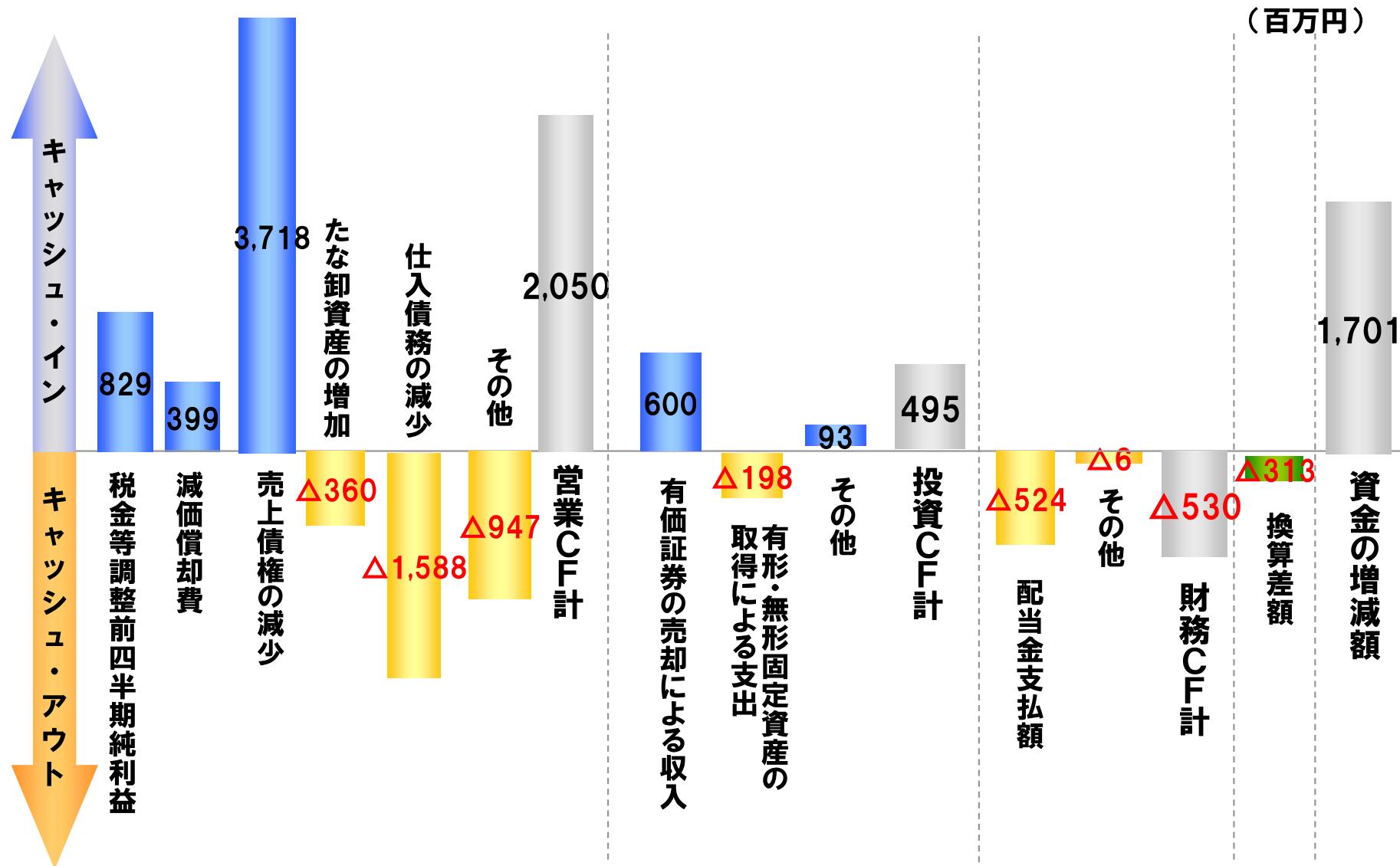
営業利益の増減要因分析



資産・負債の増減要因分析



キャッシュフローの状況



2016年度第2四半期決算 セグメント別分析

装置事業セグメント

環境試験器

■受注高は、前年同期比・期初計画比ともに減少

前年同期比では、東南アジア・欧州を中心とする輸出減の影響が大きい

計画比では、北米・中国・韓国の子会社が期初計画に届かず

■売上高は、前年同期比では増加したが、大きな伸びを見込んでいた期初計画は下回る

前年同期比では、前期受注の大型FPD装置が貢献、カスタム製品も国内外で健闘

計画比では、カスタム製品が計画には及ばず、海外子会社の未達も大きな要因

エナジーデバイス装置

■受注高は、前年同期比・期初計画比ともに増加

燃料電池評価装置の受注が上期に集中

■売上高は、前年同期比・期初計画比ともに減少

燃料電池評価装置の売上計上は下期以降、二次電池関連装置は低迷

半導体関連装置

■受注高・売上高ともに、前年同期比・期初計画比で増加

自動車向けを中心に好調

装置事業セグメント

(百万円)

	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q期初計画	2016年度 2Q累計	前年 同期比	期初 計画比
受注高	17, 156	15, 600	16, 508	△3. 8%	5. 8%
売上高	12, 909	14, 900	14, 188	9. 9%	△4. 8%
営業利益 [利益率(%)]	887 [6. 9%]	1, 150 [7. 7%]	901 [6. 4%]	1. 5%	△21. 7%

サービス事業セグメント

(百万円)

	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q期初計画	2016年度 2Q累計	前年 同期比	期初 計画比
受注高	2, 944	2, 800	2, 908	△1. 2%	3. 9%
売上高	2, 615	2, 800	2, 666	1. 9%	△4. 8%
営業利益 [利益率%]	215 [8. 2%]	300 [10. 7%]	152 [5. 7%]	△29. 3%	△49. 3%

アフターサービス・エンジニアリング

■受注高・売上高ともに、前年同期並み、期初計画に対しても大きな増減なし

受託試験・レンタル

■受注高は、前年同期並み、期初計画どおり

■売上高は、前年同期並みだが、拡大を見込んでいた期初計画には届かず

レンタルが低迷、テストコンサルティングは自動車市場を中心に堅調だが計画は下回る

その他事業セグメント

(百万円)

	2015年度 2Q累計	2016年度 2Q期初計画	2016年度 2Q累計	前年 同期比	期初 計画比
受注高	808	700	621	△23. 2%	△11. 3%
売上高	733	400	502	△31. 5%	25. 5%
営業利益 [利益率(%)]	32 [4. 4%]	△50 [△12. 5%]	△45 [△9. 1%]	—	—

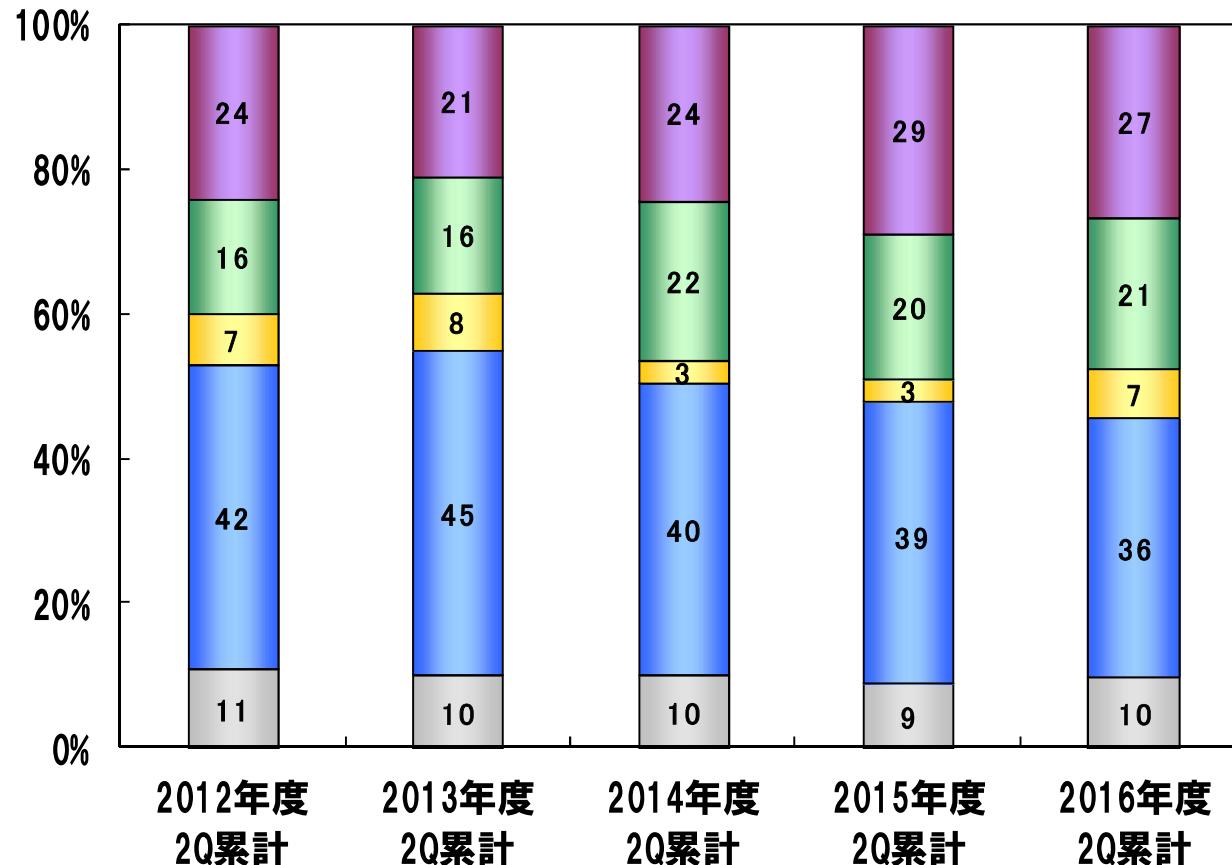
環境エンジニアリング・植物工場

- 植物工場および森づくりが低迷し、受注高・売上高・営業利益のすべてにおいて前年同期を下回る
- 売上高・営業利益は期初計画を上回る

市場別売上構成比

単体(装置事業)

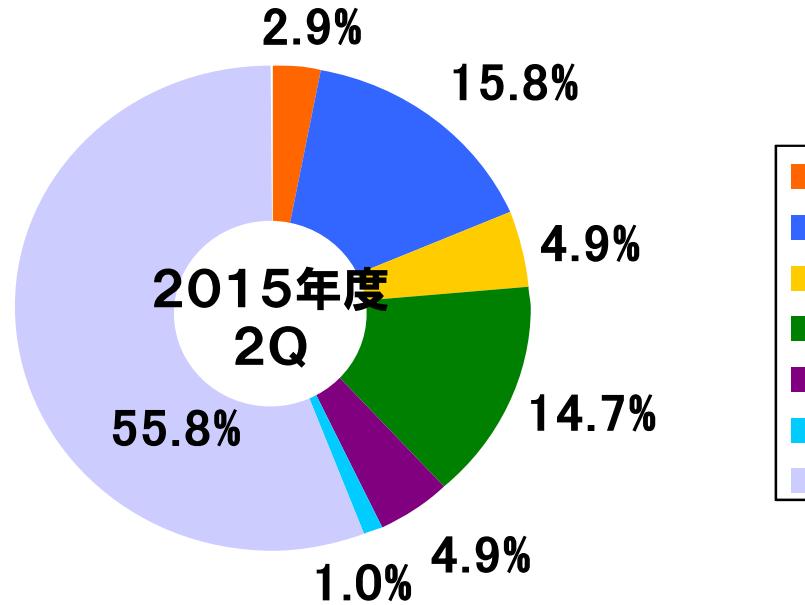
- その他市場
- 自動車市場
- フラットハーネス・レイ市場
- 電子部品・電子機器市場
- 半導体市場



地域別売上構成比

2015年度 2Q累計

海外売上高比率:44.2%

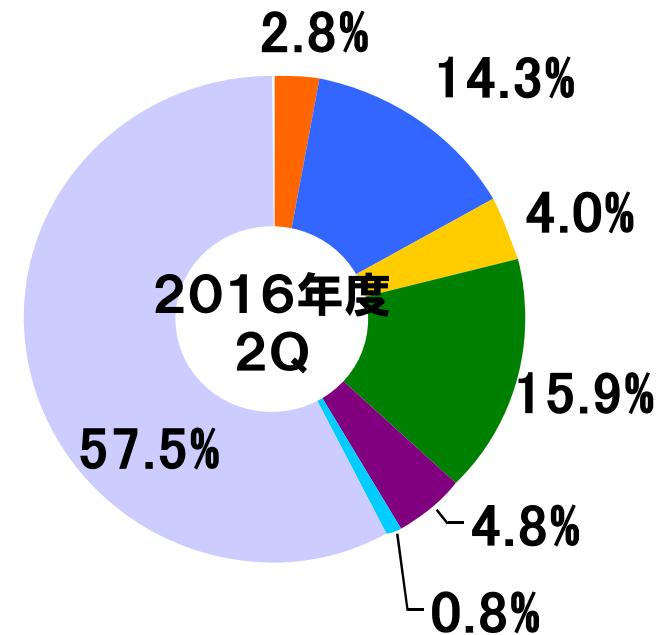


計 16,136百万円

(海外売上高:7,125百万円)

2016年度 2Q累計

海外売上高比率:42.5%



計 17,250百万円

(海外売上高:7,339百万円)

2016年度通期計画

2016年度想定為替レート

■想定為替レート

	2015年度		2016年度		
	上期実績	通期実績	実績		通期想定
			1Q	上期	
USドル(円)	120.31	121.11	115.33	111.74	105

■2016年度為替感応度(対ドル1円円高)

売上高 126百万円減少

営業利益 2,560万円減少

2016年度下期の環境認識

装置事業	環境試験器	◎	自動車市場は、電動化・電装化・自動運転の開発が進んでおり国内外ともに投資意欲は強い
		○	スマホ市場は、次世代スマホの開発が進んでおり国内外ともに需要は堅調
		△	国内は、円高の影響による投資抑制に懸念あり
		△	海外は、中国は堅調、東南アジアは低迷
	エナジーデバイス装置	○	燃料電池は、燃料電池車の開発が進んでおり堅調
	半導体関連装置	○	半導体は自動車向けを中心に堅調
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	○	アフターエンジは前年並み 受託試験は自動車市場を中心に堅調
その他事業	環境エンジニアリング 植物工場	✗	水辺づくりは堅調だが、植物工場・森づくりは低調

2016年度 通期計画

(百万円)

	2015年度	2016年度					通期 (期初計画)	
	通期実績	上期実績	修正計画					
			下期計画	通期計画	通期前期比			
受注高	39, 903	19, 914	19, 086	39, 000	△2. 3%	40, 000		
売上高	39, 035	17, 250	20, 750	38, 000	△2. 7%	39, 000		
売上総利益 [利益率(%)]	13, 573 (34. 8%)	5, 889 (34. 1%)	7, 264 (35. 0%)	13, 153 (34. 6%)	△3. 1%	13, 830 (35. 5%)		
営業利益 [利益率(%)]	3, 521 (9. 0%)	1, 009 (5. 9%)	1, 991 (9. 6%)	3, 000 (7. 9%)	△14. 8%	3, 600 (9. 2%)		
経常利益 [利益率(%)]	3, 570 (9. 1%)	833 (4. 8%)	2, 017 (9. 7%)	2, 850 (7. 5%)	△20. 2%	3, 700 (9. 5%)		
親会社株主に帰属 する当期純利益 [利益率(%)]	2, 410 (6. 2%)	512 (3. 0%)	1, 488 (7. 2%)	2, 000 (5. 3%)	△17. 0%	2, 600 (6. 7%)		
設備投資額	1, 162	243	355	598	△48. 5%	480		
減価償却費	757	396	410	806	6. 5%	746		
研究開発費	956	519	465	984	2. 9%	960		
1株当たり純利益 (円)	104. 75	22. 47	65. 25	87. 72	△16. 3%	113. 98		

装置事業セグメント

(百万円)

	2015年度		2016年度				通期 (期初計画)	
	通期実績	上期実績	修正計画					
			下期計画	通期計画	通期前期比			
受注高	32, 951	16, 508	15, 552	32, 060	△2. 7%	33, 000		
売上高	32, 030	14, 188	16, 722	30, 910	△3. 5%	32, 000		
営業利益 [利益率(%)]	2, 986 [9. 3%]	901 [6. 4%]	1, 599 [9. 6%]	2, 500 [8. 1%]	△16. 3%	3, 000 [9. 4%]		

サービス事業セグメント

(百万円)

	2015年度		2016年度				通期 (期初計画)	
	通期実績	上期実績	修正計画					
			下期計画	通期計画	通期前期比			
受注高	5, 874	2, 908	3, 002	5, 910	0. 6%	6, 000		
売上高	5, 786	2, 666	3, 284	5, 950	2. 8%	6, 000		
営業利益 [利益率 (%)]	516 [8. 9%]	152 [5. 7%]	348 [10. 6%]	500 [8. 4%]	△3. 1%	600 [10. 0%]		

その他事業セグメント

(百万円)

	2015年度		2016年度				通期 (期初計画)	
	通期実績	上期実績	修正計画					
			下期計画	通期計画	通期前期比			
受注高	1, 340	621	609	1, 230	△8. 2%	1, 200		
売上高	1, 474	502	838	1, 340	△9. 1%	1, 200		
営業利益 [利益率 (%)]	19 [1. 3%]	△45 [△9. 1%]	45 [5. 4%]	0	—	0		

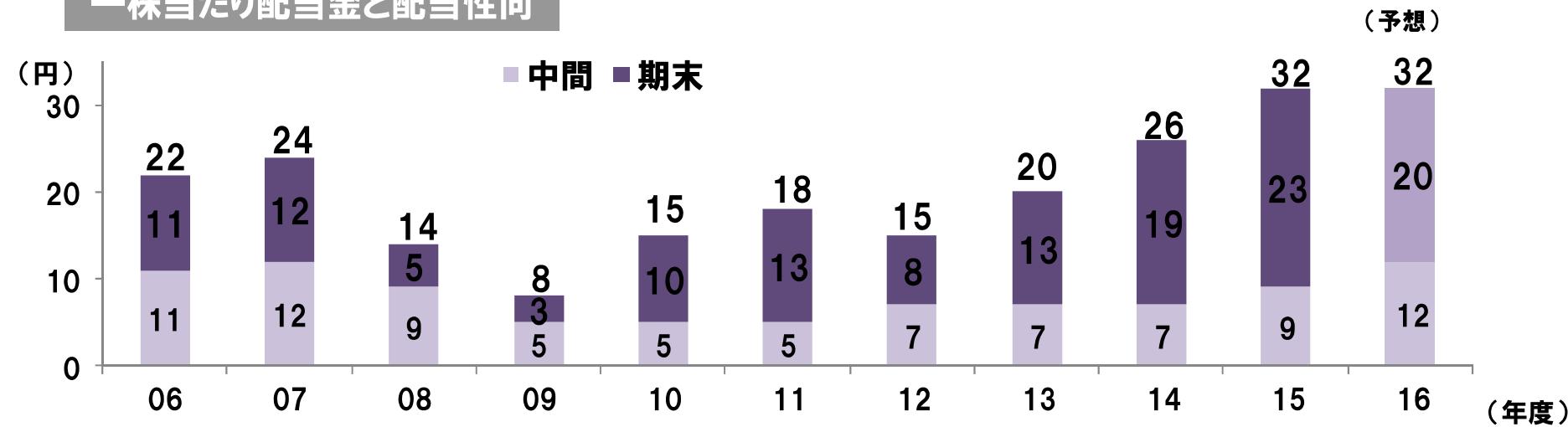
配当政策

配当方針

株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本と考え、配当は継続性と配当性向を勘案して決定

一株当たり配当金と配当性向

(予想)



配当性向

20.6% 46.7% — — 21.4% 21.9% 28.6% 29.6% 28.5% 30.5% 36.5%

※2007年度は創業60周年記念配当2円を含む

※2008・2009年度は当期純損失ながら配当を実施

Quality is more than a word

ESPEC

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があり、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。**

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744

FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

コーポレートコミュニケーション部

**部長
IR担当**

**西谷
大川・池嶋**

參考資料

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>
日本で民生品の環境試験が
JIS規格化



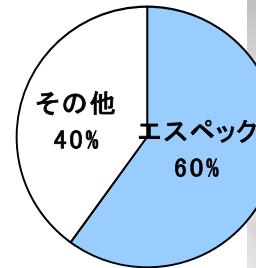
<1970年代・1990年代>
「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要な
テーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い
需要が飛躍的に拡大



<現在>
二次電池や太陽電池など
新エネルギー分野において
需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



【低温恒温恒湿器 ルシファー】

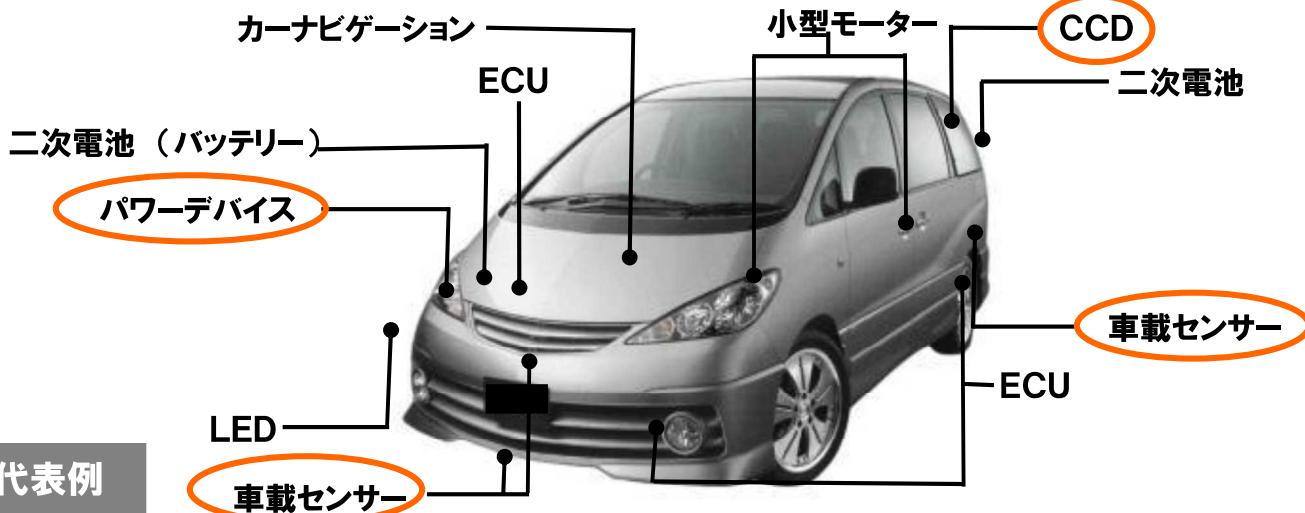
【恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ】

事業の変遷

環境試験器で培った 「環境創造技術」を軸に事業を拡大



【装置事業】環境試験器の用途事例



環境試験の代表例

デバイス	プロセス／試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
	評価	■冷熱衝撃試験: $-30^{\circ}\text{C} \leftrightarrow \text{RT} \leftrightarrow +80^{\circ}\text{C}$ 、 $-55^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +155^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
【CCD/CMOS】 	生産	■拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	評価	■スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
		■温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C} / +85\%rh$, $+60^{\circ}\text{C} / 90\%rh$	恒温恒湿器(プラチナス)
	検査	■加速試験: $+120^{\circ}\text{C} / 100\%rh$	HASTチャンバー
		■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$, $-20^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2016年11月	ハイパワー恒温恒湿器ARシリーズ 急速温度変化タイプ	・IEC規格や自動車関連規格に対応 ・最速18°C / mの急速温度変化率を実現
2016年6月	IPX9K対応試験装置 (高圧蒸気洗浄噴射)	・自動車の洗浄中の高圧蒸気が電子機器に及ぼす影響を評価、ISO規格対応
2016年6月	シロキサン耐久試験器	・主に自動車において、樹脂等に含まれるシロキサンが電子機器に与える影響を評価
2016年4月	通信ネットワーク商品 「オンラインコア」に新機能を追加	・装置・周辺機器の集中管理システム (運転状況の監視、スケジュール管理など)
2015年9月	万能試験機用恒温槽	・プラスチック、ゴム、繊維などの材料評価試験
2015年2月	低温恒温恒湿器	・食品の保存試験 ・医薬品・化粧品の長期冷蔵保存試験
2014年11月	冷熱衝撃装置TSAシリーズ	・最新のコントローラーを搭載し、操作性を向上
2014年11月	アドバンストセーフティテスター	・二次電池の3種の安全性試験を1台で行える

【装置事業】TOPICS

『小型環境試験器』が国際的なデザイン賞 「iFデザインアワード2016」を受賞

世界的に最も権威のあるデザイン賞「iFデザインアワード2016」において、当社の「小型環境試験器」がプロダクト分野で受賞しました。

本製品は、電気電子部品、自動車部品の研究開発段階での信頼性評価用途などで使用され、他社製品にはないコンパクトさや、機能性の高いデザインなどが日本国内はもちろん海外でも高く評価されています。



【装置事業】TOPICS

業界初 「製品5年保証」をスタート

2015年1月、主力3製品において業界初となる「製品5年保証」をスタートしました。製品の品質の高さと万全のアフターサービス網を持つ当社ならではのサービスです。

●対象製品



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ



小型環境試験器



冷熱衝撃装置TSAシリーズ

【装置事業】 エナジーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

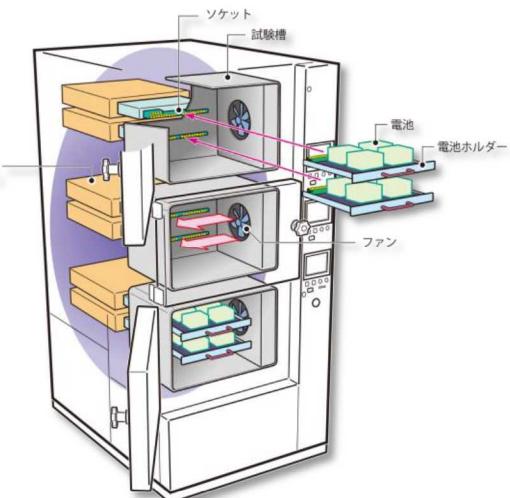
ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



二次電池



充放電サイ
クル負荷



二次電池の充放電特性を確認

充放電サイクル評価装置
アドバンストバッテリーテスター

二次電池の性能や寿命を評価

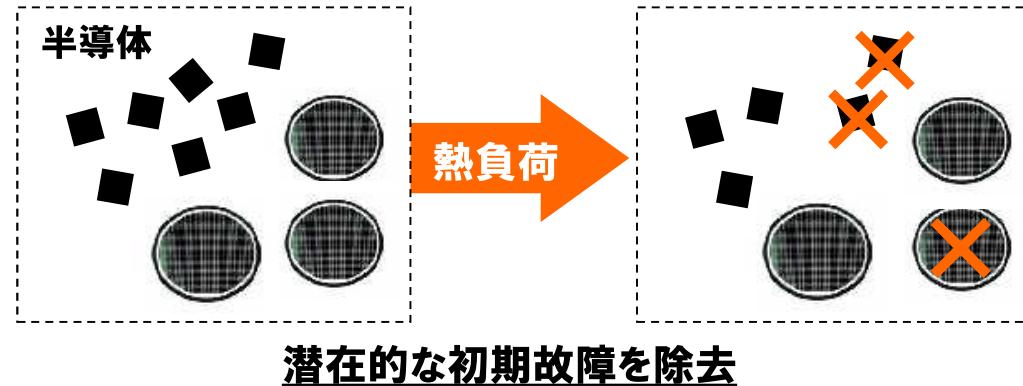
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価

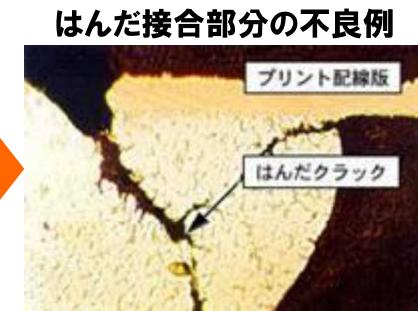


導体抵抗評価システム



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電気的に評価

熱サイクル負荷



はんだ接合部分の不良例

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No. 1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初のサービス「エスペックオンラインサポート」をスタート
- 世界各国に代理店を構え、海外においても「グローバルサポートデスク」を設置

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内5ヵ所、中国2ヵ所に受託試験所を展開

(国内:宇都宮2ヵ所・豊田・刈谷・神戸、中国:上海・蘇州)

- ・ ISO/IEC17025に基づくIECQ独立試験所

- ・ 計量法校正事業者認定制度 (JCSS) に基づく校正機関

- 2015年9月世界初「バッテリー安全認証センター」開設

- ・ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した

試験・認証申請のワンストップサービスを提供

- ・ 第三者認証機関チュフズードジャパン(株)と業務提携(2014年10月)



【バッテリー安全認証センター】
(宇都宮テクノコンプレックス内)

【サービス事業】TOPICS

世界初「バッテリー安全認証センター」を開設

2015年9月、宇都宮テクノコンプレックスに新たに開設

国連規則ECE R100-2. Part II※で定められた9項目の安全性試験の実施

および認証機関への認証申請をサポートするワンストップサービスを提供

※2016年7月より適用開始



バッテリー安全認証センター
(宇都宮テクノコンプレックス内)



圧壊試験機(第1安全試験室) 第2安全試験室



【その他事業】 環境エンジニアリング

環境エンジニアリング

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり



■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物工場事業

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育てる植物研究・育成システムおよび装置



コンテナ式植物工場



ファイトロン

【その他事業】TOPICS

羽田空港近郊に臨空型植物工場を設置

2016年3月、海洋深層水を使用した高付加価値野菜の実証生産施設※を設置

※株式会社ディーエイチシー、京都大学との共同研究



臨空型植物工場（内部）と生産野菜「ミネラリーフ」